



インフロニア・ホールディングス  
23年3月期 第1四半期アナリスト向け決算説明会



August 10, 2022

# 23年3月期 第1四半期 決算説明会 目次

## 本編

1. 決算のポイント
2. 決算の概要
3. セグメント別 売上高・利益の内訳
4. 手持工事高、受注高、受注時利益率の推移  
(建築、土木セグメント)
5. 資本戦略・還元方針／FY22 1Qの実績と見通し

## セグメント別ハイライト

1. 建築セグメント 売上高と売上総利益の推移
2. 建築セグメント 受注高と受注時利益率の推移
3. 建築セグメント 建物用途別 国内受注比率の推移
4. 土木セグメント 売上高と売上総利益の推移
5. 土木セグメント 受注高と受注時利益率の推移
6. インフラ運営セグメント 連結利益への貢献
7. インフラ運営セグメント 再生可能エネルギープロジェクト
8. 三浦市公共下水道（東部処理区）運営事業のご紹介
9. 舗装セグメント 建設事業 受注高、売上高、売上総利益の推移
10. 舗装セグメント 製造販売 売上高と売上総利益の推移
11. 機械セグメント 売上高と売上総利益の推移

## Appendix

1. 【個別】前田建設 FY22 1Q実績と通期計画
2. 【連結】前田道路 FY22 1Q実績と通期計画
3. 【連結】前田製作所 FY22 1Q実績と通期計画
4. 主なグループ会社のFY22 1Q実績と通期計画
5. セグメント分けの変更
6. インフラ運営事業（脱請負）のビジネスモデル
7. インフラ運営事業（脱請負）の新たな事業プラットフォームの構築
8. インフラ運営事業（脱請負）の第1号投資案件
9. インフラ運営セグメント 利益貢献額について
10. 政策動向：PPP/PFI推進アクションプラン  
(令和4年度改訂版) が内閣府より公表
11. トピックス「低炭素素材の推進」

# 1. 決算のポイント

## ① FY21 1Qの決算総括 (P.4, P.7)

- **1Qの実績については前年同期比で増収増益**となった。原油価格の高騰及び円安の影響により舗装セグメントが減益となったが、再生可能エネルギー事業の売却等により利益を確保した
- **通期の当期純利益については過去最高**となる見込み (対前田建設連結比)

## ② セグメント毎のFY22 1Q実績・FY22通期計画について (P.8-23)

### 建築・土木セグメント

- 建築の受注は今後、利益率を確保できる確度の高い大型案件の受注を見込んでおり、**通期計画の受注時利益率7%を確保できる見込み**
- 建築・土木は、好採算の手持ち工事の進捗により、FY22通期では増益の見込み (海外の特殊要因を除く)

### インフラ運営セグメント

- 再生可能エネルギー事業において風力1件の売却により、**前年同期比で大幅に増収増益**
- 大阪市工業用水道コンセッションに続き、国内初となる下水道の処理場、ポンプ場、管路の全ての維持管理から更新までを含む**三浦市公共下水道コンセッションの優先交渉権を獲得 (9月議会で承認予定)**

### 舗装セグメント

- 原油高と円安による原材料費高騰分を吸収できず、前年同期比減益
- 国交省による単品スライド条項の運用ルール改訂※も踏まえ、全社的な価格交渉が確実に進展してきていることで、下期にかけて**業績改善の見込み**

※単品スライド条項の運用ルール改訂 (令和4年6月17日発出)

従来は「実際の購入価格」と「購入した月の物価資料の単価」を比較し、安い方の単価が工事請負代金に用いられていたが、購入価格が適当と示す証明書類を提出することで、「実際の購入価格」の方が高くても変更請負代金に用いることが可能になった

# 1. 決算のポイント

## 機械セグメント

- 部品供給の遅れ及び資材高騰の影響を受けたが、建設機械の新車・中古車の販売、自社製品「クローラークレーン」の販売が堅調に推移し、**前年同期比増収増益**
- 通期では部品供給の遅れによる影響は懸念されるが、産業・鉄構機械等は堅調に推移する見込みであり**売上高、売上総利益共にFY21を上回る**見込み

## ③株主還元について（P.7）

- FY21の自己株式200億円取得に引き続き、**FY22中に100億円取得し、速やかに消却**の予定（本日発表）

## ④政策保有株について（P.7）

- FY22中に200億円程度を目標に**売却を予定通り進行中**
- 1年度前倒しで、**FY23中に中期経営計画目標20%**の達成を目指す

## 2. 決算の概要

- 1Q及び通期計画は、再エネ事業の売却等により**前期比で増収増益**
- 当期純利益については**過去最高**となる見込み（対前田建設連結比）

(億円)

	前田建設（連結）	インフロニアHD			インフロニアHD		
	FY21 1Q実績	FY22 1Q実績	前年 同期比	進捗率	FY21 通期実績	FY22 通期計画	前期比
売上高	1,421	1,496	75	20.5%	6,829	7,306	477
売上総利益	140 (9.8%)	212 (14.2%)	73	21.3%	916 (13.4%)	997 (13.6%)	69
一般管理費	128 (9.0%)	139 (9.3%)	11	24.3%	541 (7.9%)	571 (7.8%)	18
営業利益	11 (0.8%)	74 (4.9%)	63	17.3%	375 (5.5%)	426 (5.8%)	51
営業外収益	12 (0.9%)	20 (1.3%)	8	54.2%	41 (0.6%)	37 -	△4
営業外費用	11 (0.8%)	9 (0.6%)	△2	31.5%	35 (0.5%)	29 -	△6
経常利益	12 (0.9%)	85 (5.7%)	73	19.4%	380 (5.6%)	435 (6.0%)	55
特別利益	17 (1.2%)	3 (0.2%)	△14	3.5%	85 (1.2%)	81 -	△4
特別損失	2 (0.1%)	2 (0.1%)	1	13.1%	20 (0.3%)	16 -	△4
当期純利益	1 (0.1%)	53 (3.5%)	52	16.4%	267 (3.9%)	324 (4.4%)	57
自己資本	2,611	—			3,469	—	
ROE	—	—			—	—	
EPS	—	—			94.7円	123.3円	

### 3. セグメント別 売上高・利益の内訳

(億円)

前田建設 (連結) 旧セグメント*	インフロンニアHD		インフロンニアHD			
	FY21 1Q実績	FY22 1Q実績	進捗率	FY21 通期実績	FY22 通期計画	前期比
1,421	売上高	1,497	20.5%	6,829	7,306	477
522	建築	395	16.6%	2,161	2,383	222
278	土木	313	20.2%	1,426	1,556	129
504	舗装	506	21.1%	2,328	2,401	73
75	機械	81	22.9%	353	355	2
38	インフラ運営	108	49.4%	187	217	30
4	その他	93	23.5%	374	395	21
140 (9.8%)	売上総利益	212 (14.2%)	21.3%	917 (13.4%)	997 (13.6%)	80
36 (7.0%)	建築	34 (8.5%)	12.7%	234 (9.4%)	265 (11.1%)	31
31 (11.0%)	土木	45 (14.3%)	18.2%	260 (18.3%)	247 (15.9%)	△13
43 (8.5%)	舗装	33 (6.5%)	12.4%	225 (9.7%)	263 (11.0%)	38
14 (18.7%)	機械	16 (19.4%)	21.0%	74 (18.5%)	75 (21.2%)	1
13 (34.6%)	インフラ運営	78 (72.6%)	77.9%	76 (30.5%)	100 (46.1%)	24
2 (51.4%)	その他	8 (8.2%)	16.2%	48 (46.1%)	47 (11.9%)	△1
10 (0.7%)	営業利益	74 (4.9%)	17.3%	375 (5.5%)	426 (5.8%)	51
-5 (-1.0%)	建築	-4 (-1.1%)	△3.6%	92 (4.2%)	116 (4.9%)	24
5 (1.7%)	土木	19 (5.9%)	13.5%	152 (10.6%)	138 (8.9%)	△14
-3 (-0.7%)	舗装	-16 (-3.2%)	△28.3	33 (1.4%)	58 (2.4%)	24
3 (4.5%)	機械	2 (2.3%)	12.3%	18 (5.2%)	15 (4.2%)	△3
9 (24.5%)	インフラ運営	73 (67.8%)	89.1%	61 (32.6%)	82 (37.8%)	21
2 (38.5%)	その他	1 (0.6%)	3.2%	19 (5.1%)	17 (4.3%)	△2

※セグメント分けの詳細についてはP.29をご参照ください

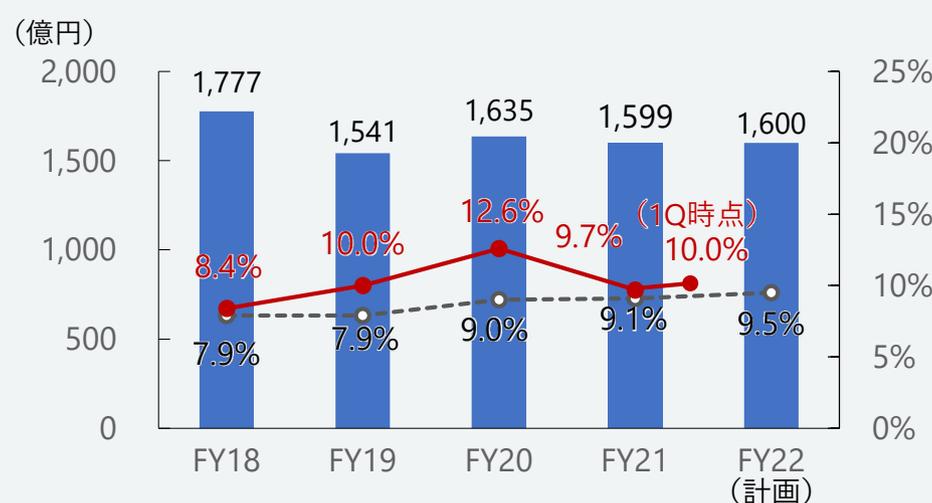
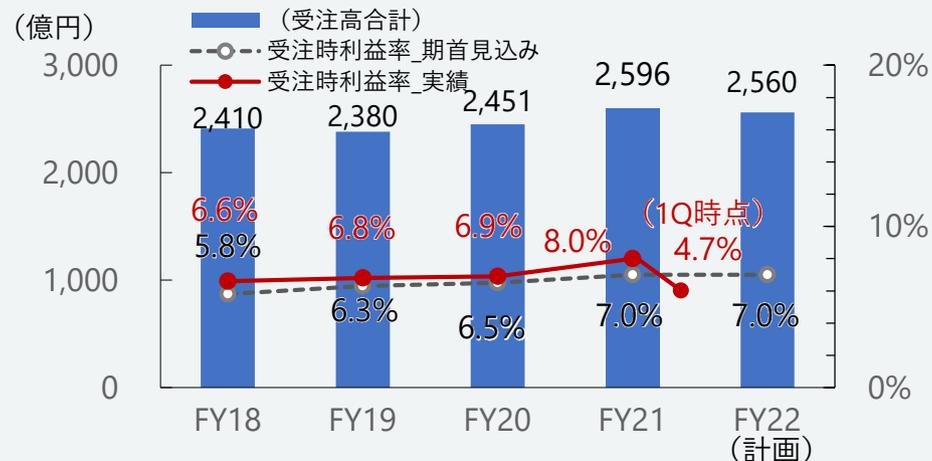
## 4. 手持工事高、受注高、受注時利益率の推移（建築、土木セグメント）

- 建築の1Q時点、期末計画の手持ち工事高は**過去最高額**
- 建築の受注時利益率は、1Q時点で物価上昇の影響により一時的に低下しているが、見積時及び受注後の追加変更時は物価上昇分を反映し、2Q以降の受注時利益率は回復する見込み
- 物価上昇分の交渉に加え、引き続き受注競争に巻き込まれにくい**上流からの作り込み**（安定顧客、設計施工比率、大型案件情報確保）により、受注時利益率は、**順調に推移**する見込み

### 手持工事高の推移※



### 受注高・受注時利益率の推移※



※前田建設（個別）の業績数値

## 5. 資本戦略・還元方針／FY22 1Qの実績と見通し

### 株主還元

- FY21の自己株式200億円取得に引き続き、**FY22中に100億円取得を実施**（本日発表）

### 政策保有株

- FY22中に200億円程度を目標に**売却を予定通り進行中**
- 1年度前倒して**FY23中に中期経営計画目標20%**の達成を目指す

Medium-term Vision 2024 (中期経営計画)			FY22 1Q実績	備考
資本効率	ROE	9.5%	—	—
最適 資本構成	自己資本比率	30%以上	40.2%	FY22 1 Q時点
	D/Eレシオ	0.6倍以下	0.4倍	FY22 1 Q時点
株主還元	配当性向	30%以上	32.0%	FY22通期計画 1株当たり配当額 <b>40円</b>
	自己株式の 取得	FY24までに 400億円以上	<b>FY22中に100億円取得 (本日発表)</b>	FY21で200億円を取得済 目標の早期達成に向け前倒しで取り組む
	総還元性向	—	64.9%	FY22通期計画 配当性向32.0% + 自己株式取得 30.9% + 地球への配当2.0%
資産 効率化	政策保有株/ 純資産割合	20%以下	27.6%	株価の上昇により FY21末26.4% → FY22 1Q27.6%となった
	保有資産の 売却	グループ保有資産の利用状況等を精査し、非効率な資産の売却・統合を検討		

## セグメント別ハイライト

建築

土木

インフラ運営

舗装

機械

その他

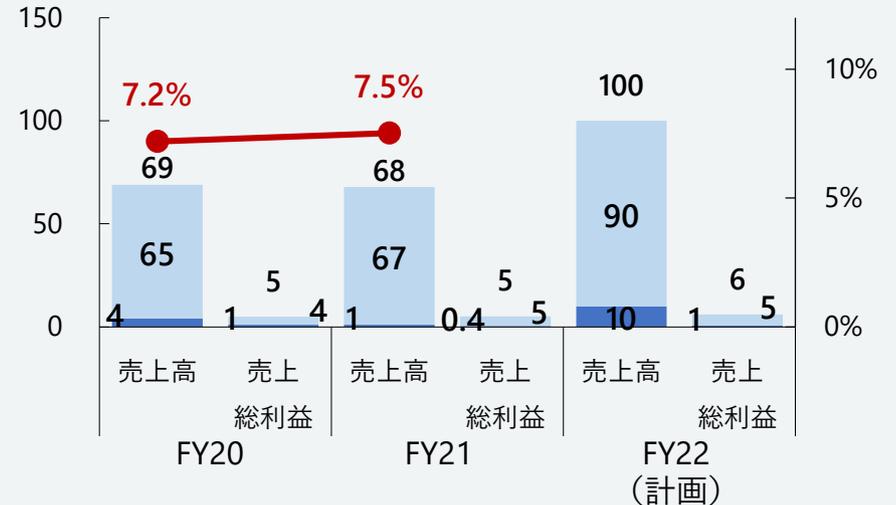
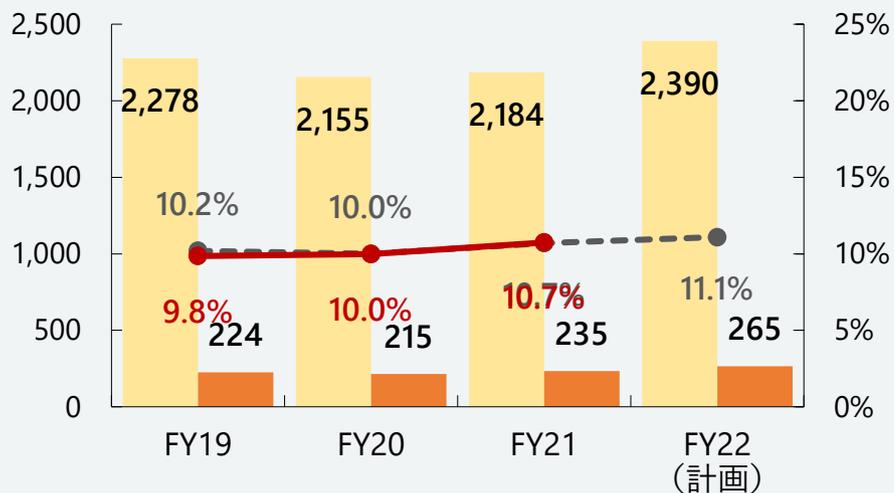
# 1. 建築セグメント 売上高と売上総利益の推移（前田建設 個別）

- FY22 1Q 直近2年に対し、国内売上高は減少したが、売上総利益は前期を上回った
- FY22通期 採算性の良い手持ち工事の進捗により、増収増益を見込む

第1四半期



通期

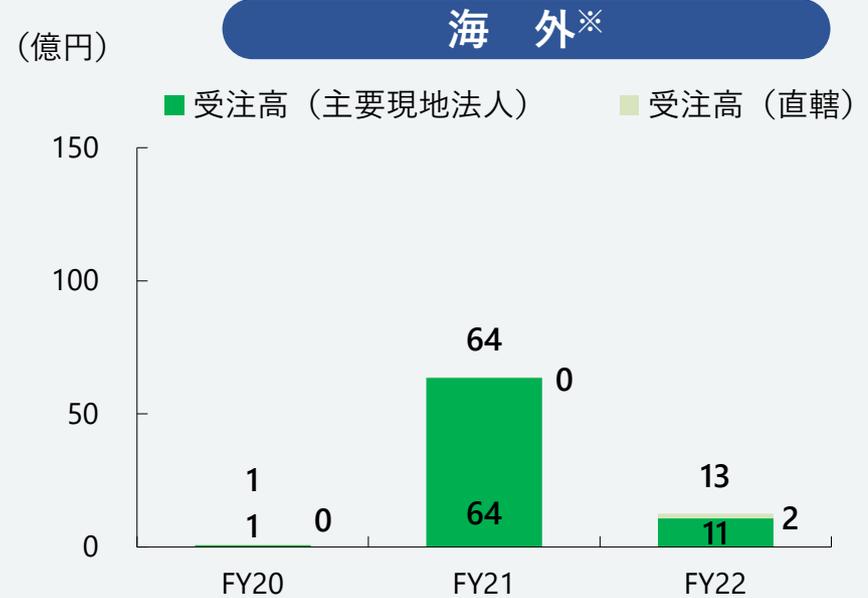
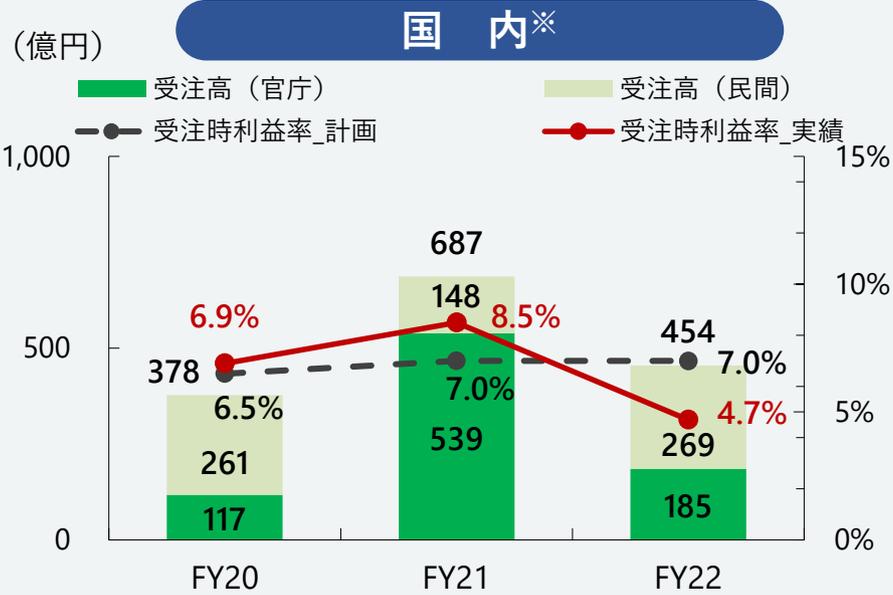


※不動産事業を含む数値のため、FY21以前の数値は公表資料と数値が異なる。  
 海外の主要現地法人の売上高、売上総利益はインフロニア・ホールディングス その他セグメントに含まれる。

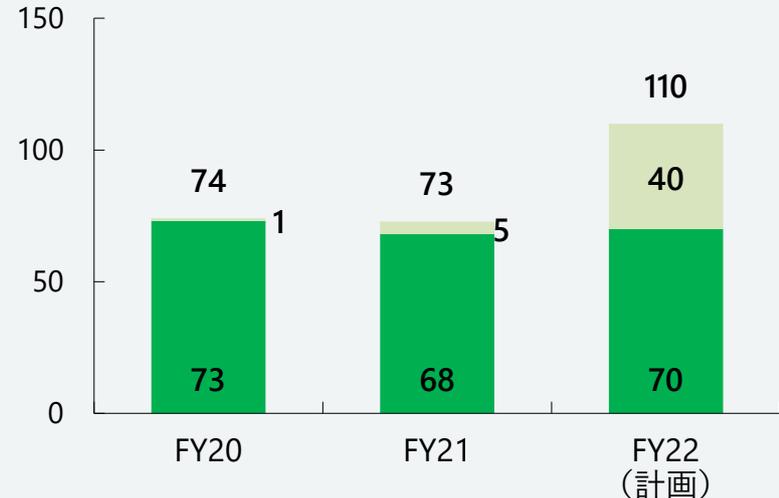
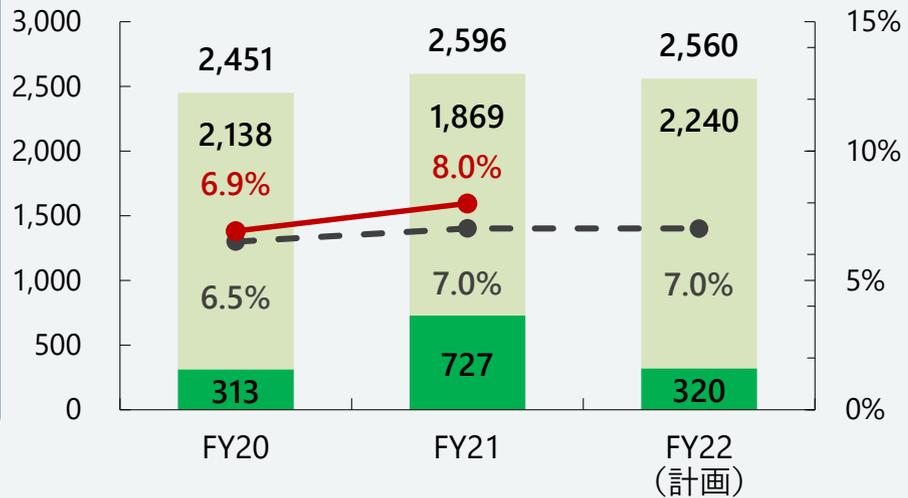
## 2. 建築セグメント 受注高と受注時利益率の推移（前田建設 個別）

- FY22 1Q 建築は、今後、利益率を確保できる確度の高い大型案件の受注を見込んでおり、**通期計画の受注時利益率7%を確保できる見込み**
- FY22通期 確度の高い大型工事の受注により、受注高・受注時利益率とも堅調に推移していく見込み

第1四半期



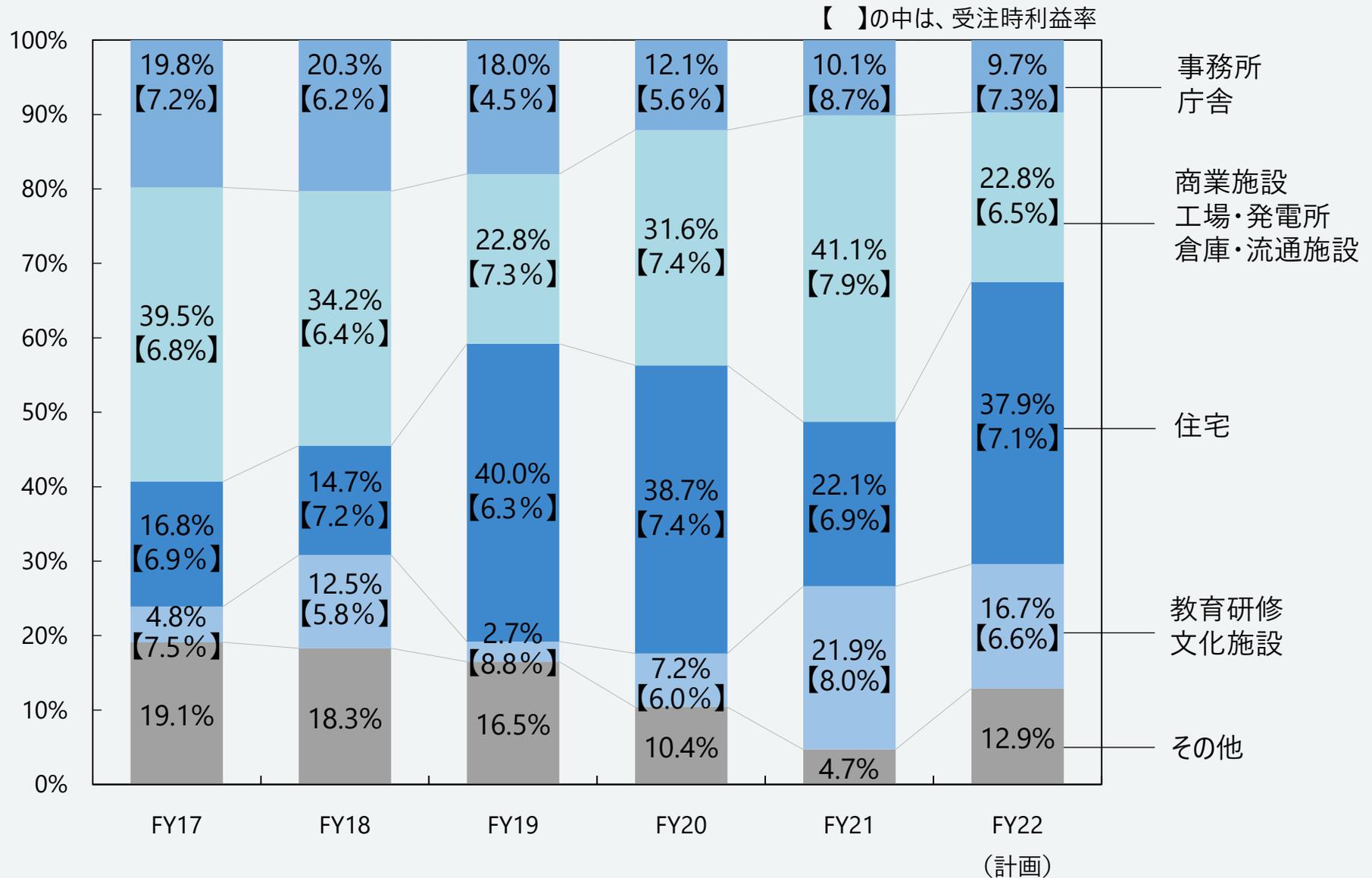
通期



※不動産事業を含む数値のため、FY21以前の数値は公表資料と数値が異なる。  
 ※海外については、当時の為替レートにより算定した額

### 3. 建築セグメント 建物用途別 国内受注比率の推移（前田建設 個別）

- FY22 通期 再開発プロジェクトを中心に、生産性の高い『住宅』を複数受注することで、住宅の構成比率が上がっていく見込み



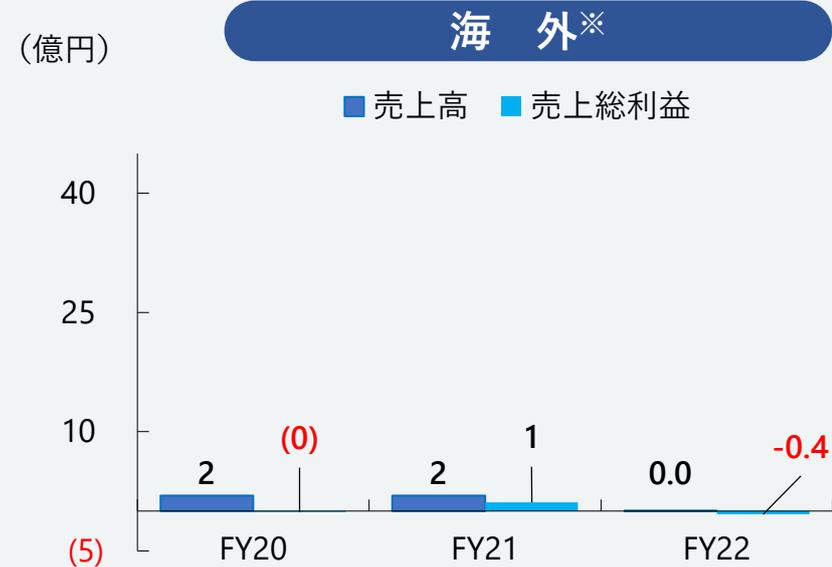
## セグメント別ハイライト

建築	<b>土木</b>	インフラ運営
舗装	機械	その他

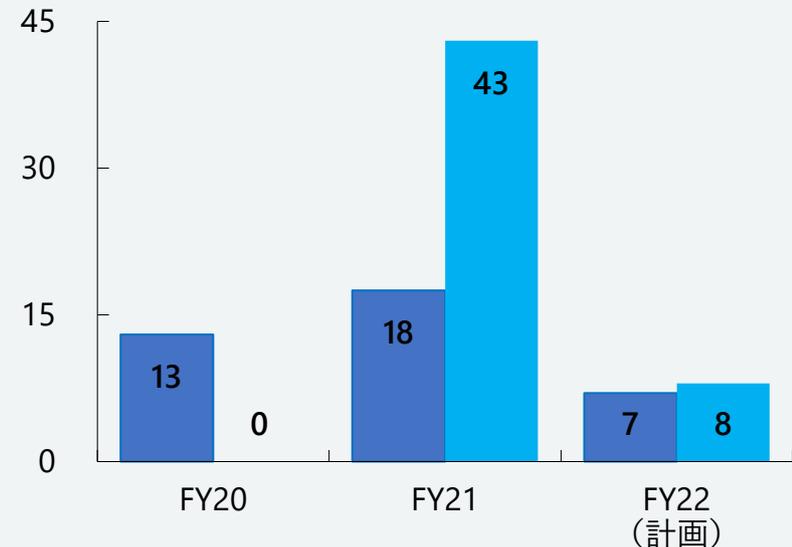
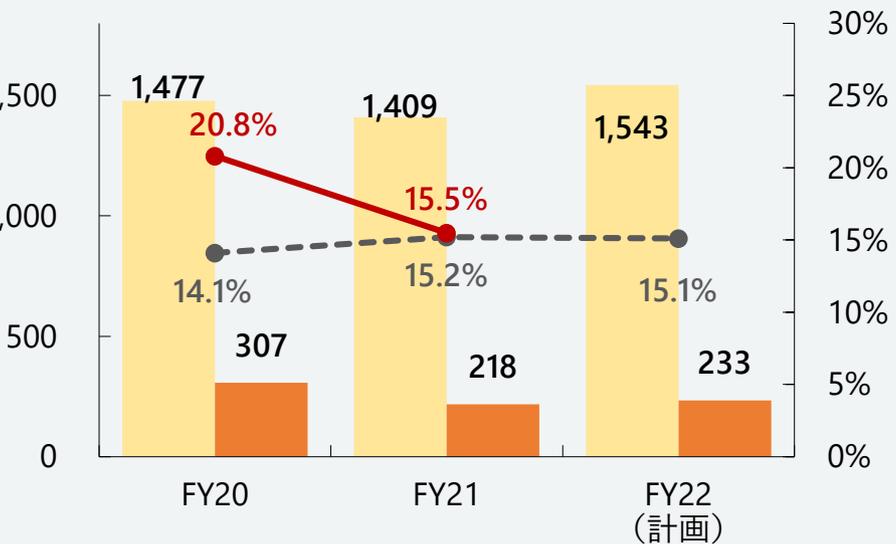
## 4. 土木セグメント 売上高と売上総利益の推移（前田建設 個別）

- FY22 1Q・通期 好採算の手持ち工事の進捗により、増収増益の見込み（海外の特殊要因を除く）

第1四半期



通期



※不動産事業を含む数値のため、FY21以前の数値は公表資料と数値が異なる。

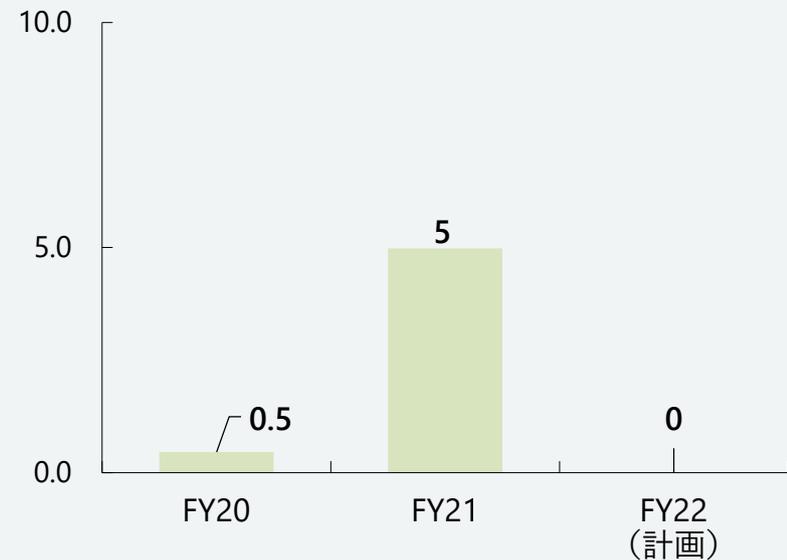
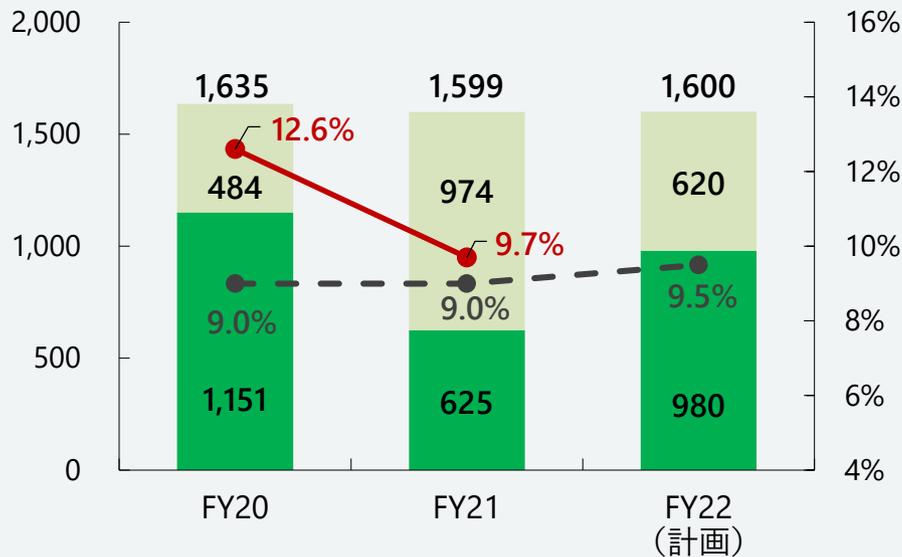
## 5. 土木セグメント 受注高と受注時利益率の推移（前田建設 個別）

- FY22通期 下期に案件が集中するため、通期計画1,600億円の受注は達成できる見込み

第1四半期



通期



※不動産事業を含む数値のため、FY21以前の数値は公表資料と数値が異なる。

## セグメント別ハイライト

建築	土木	インフラ運営
舗装	機械	その他

## 6. インフラ運営セグメント 連結利益への貢献

- 1Qで、再生可能エネルギー事業において風力1件の売却により、前年同期比で大幅に増収増益
- 7月に三浦市公共下水道コンセッションの優先交渉権者に選定、下期に実施契約締結の見込み
- 通期での連結利益への貢献額は、**過去最高の109億円**となる見込み

		FY18 (実績)	FY19 (実績)	FY20 (実績)	FY21 (実績)	FY22		
						通期計画	1Q実績	進捗率
連結利益への貢献（合計）		62億円	53億円	52億円	72億円	109億円	79億円	72%
内 訳	連結子会社の営業利益 (愛知道路C、八峰風力発電等)	38億円	48億円	43億円	40億円	29億円	11億円	38%
	個別業績貢献 (O&M,EPC,開発等業務委託利益等)	13億円	5億円	12億円	2億円	8億円	0.3億円	4%
	その他収益 ※	11億円	0億円	△3億円	29億円	71億円	67億円	94%

※ その他収益には売却益、非連結SPC株式配当等を含む

## 7. インフラ運営セグメント 再生可能エネルギープロジェクト

事業区分	場所	規模(AC)	FIT価格	総事業費	内容
太陽光	茨城県 つくば	2 MW	40円	約6億円	2013/3 完成
	岩手県 大船渡	18 MW	40円	約64億円	2022/3 売却
	茨城県 北茨城	6.5 MW	36円	約21億円	2016/3 売却
	山口県 美祢	7 MW	40円	約28億円	2022/3 売却
	山梨県 甲斐	18 MW	36円	約70億円	2020/5 完成・売却
陸上風力	青森県 六ヶ所	20 MW	22円	約113億円	2016/6 売却
	秋田県 八峰	20 MW	22円	約72億円	<b>2022/6 売却</b>
バイオマス	愛媛県 大洲	50 MW	24円	約400億円	2024/7 完成予定
計		141.5MW		約770億円	

陸上風力	全国	(検討中)	-	-	事業開発中
洋上風力	全国	(検討中)	-	-	事業開発中
バイオマス	全国	(検討中)	-	-	事業開発中
計		1,000MW以上		数千億円以上	

## 8. 三浦市公共下水道（東部処理区）運営事業のご紹介

### POINT

- ✓ 国内初、一処理区の処理場、ポンプ場、管路の全ての維持管理から更新までを含む下水道コンセッション
- ✓ 小規模自治体の下水道に共通する課題を設備ダウンサイズやデータドリブン経営で解決

発注者	三浦市
事業会社	特別目的会社（SPC）※2022年8月設立予定
構成企業	前田建設(49%) 東芝インフラシステムズ(20%) クボタ(20%) 日本水工設計(10%) ウォーターエージェンシー(1%)
期間	2023年4月～2043年3月（20年間）
対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東部浄化センター（処理能力：8,050m<sup>3</sup>/日）</li> <li>・ 金田中継センター</li> <li>・ 管路（総延長：58 km ※うち幹線延長：8.45 km）</li> <li>・ マンホールポンプ 14 箇所</li> </ul>
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共下水道の経営</li> <li>・ 改築（土木建築、機電、管路）</li> <li>・ 処理場・ポンプ場の維持管理</li> <li>・ 管路の維持管理</li> <li>・ 各種計画（下水道事業計画等）策定支援</li> </ul>

■三浦市東部処理区 区域



## セグメント別ハイライト

建築

土木

インフラ運営

舗装

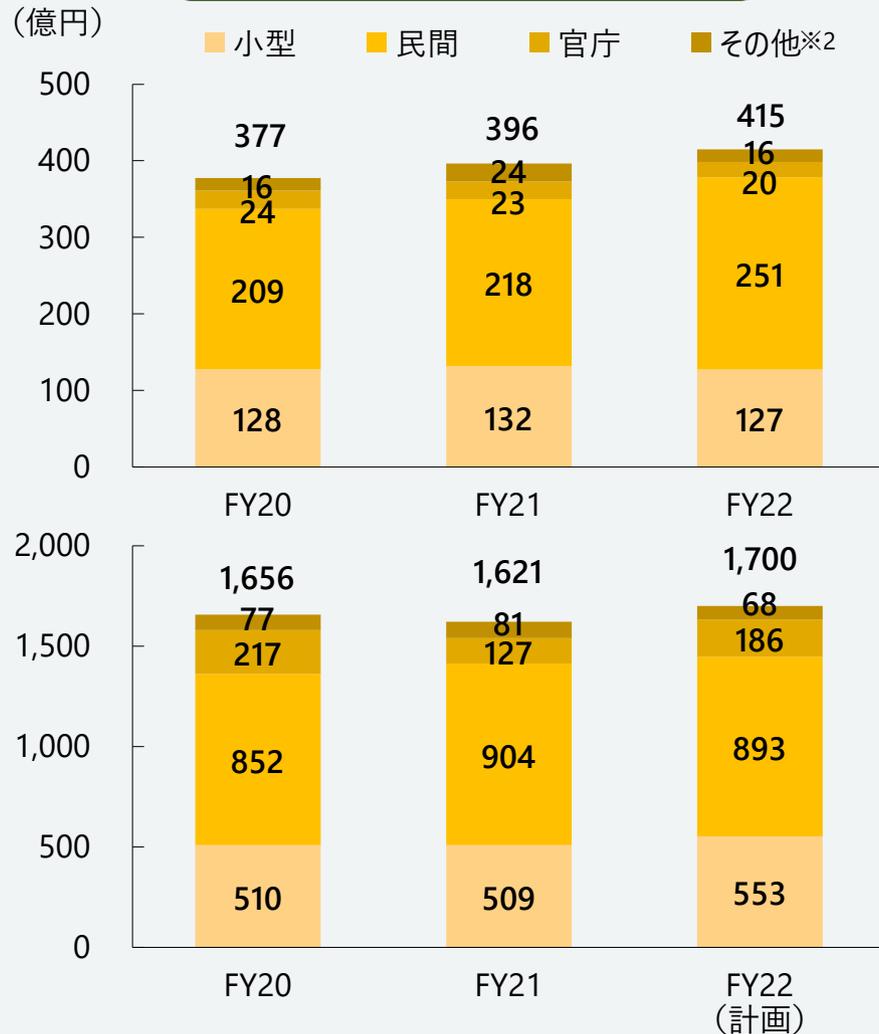
機械

その他

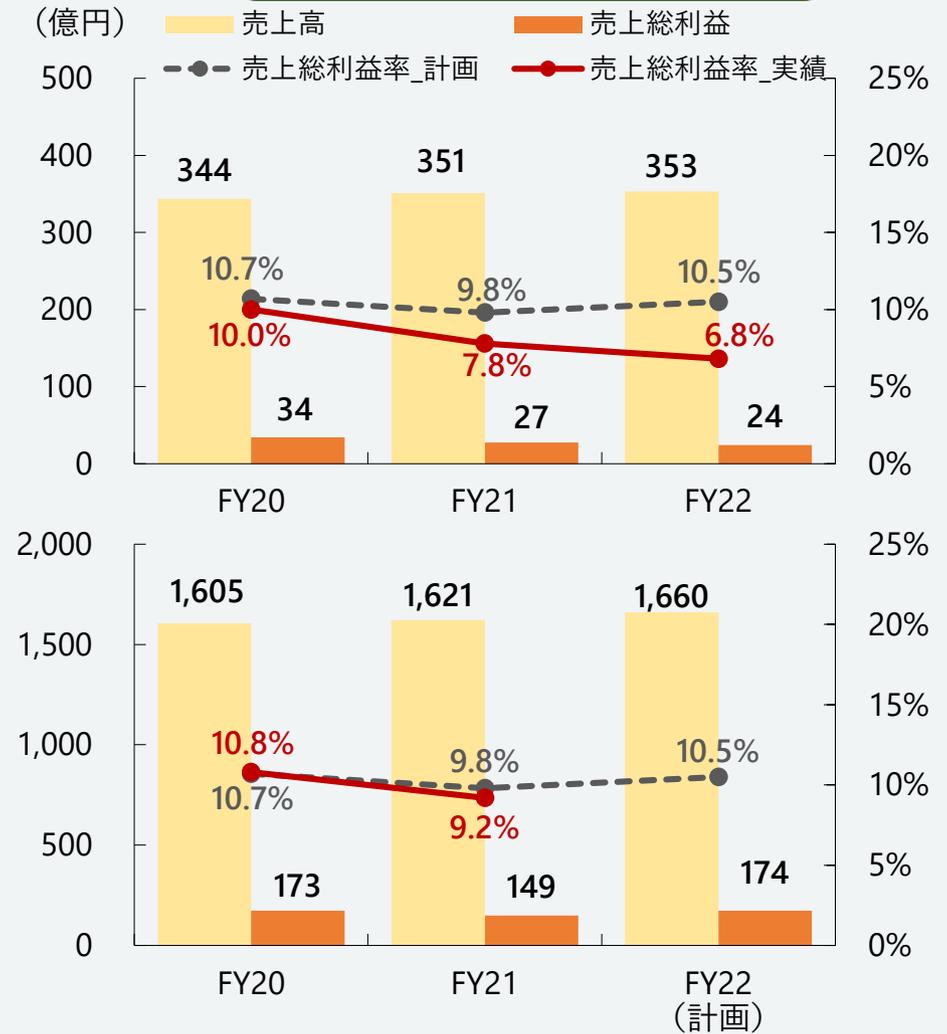
## 9. 舗装セグメント【建設事業】受注高、売上高、売上総利益の推移

- FY22 1Q 舗装工事における、原材料費の上昇により減益
- FY22通期 2Q以降は、原材料費上昇分を工事価格へ反映することで、利益率は回復する見込み

受注高※1



売上高と売上総利益※1



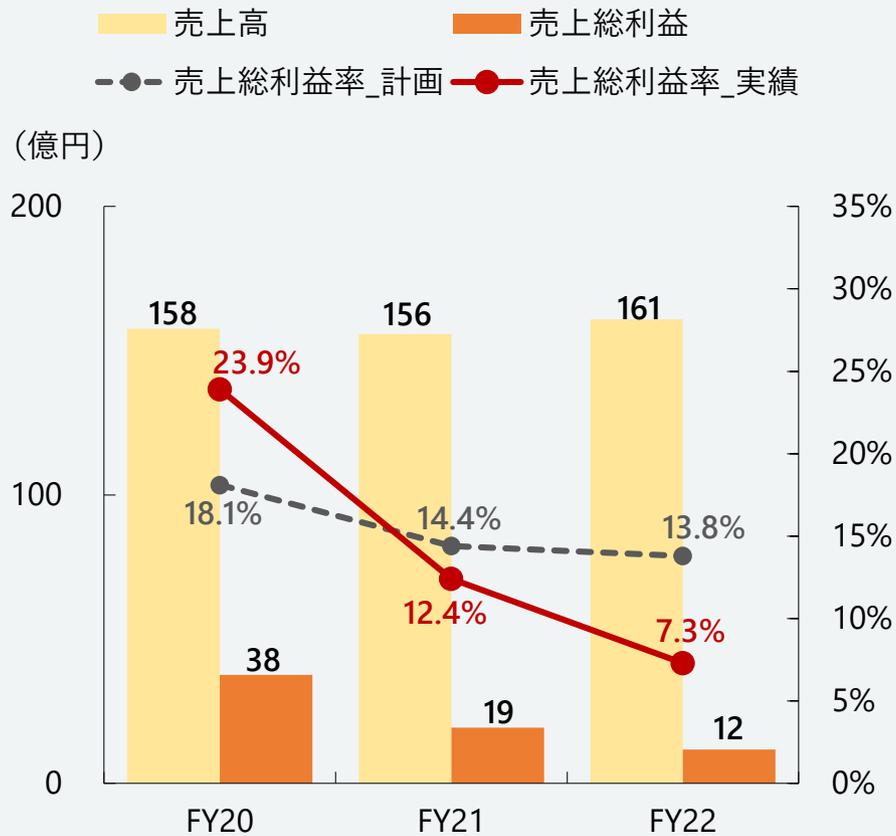
※1 従来の前田道路の連結数値であり、インフロニアグループ内の連結消去を考慮していない。「小型」は、請負金額500万円以下の工事を指す。

※2 その他：関連会社の受注高（主に官庁工事）及びセグメント内取引消去高

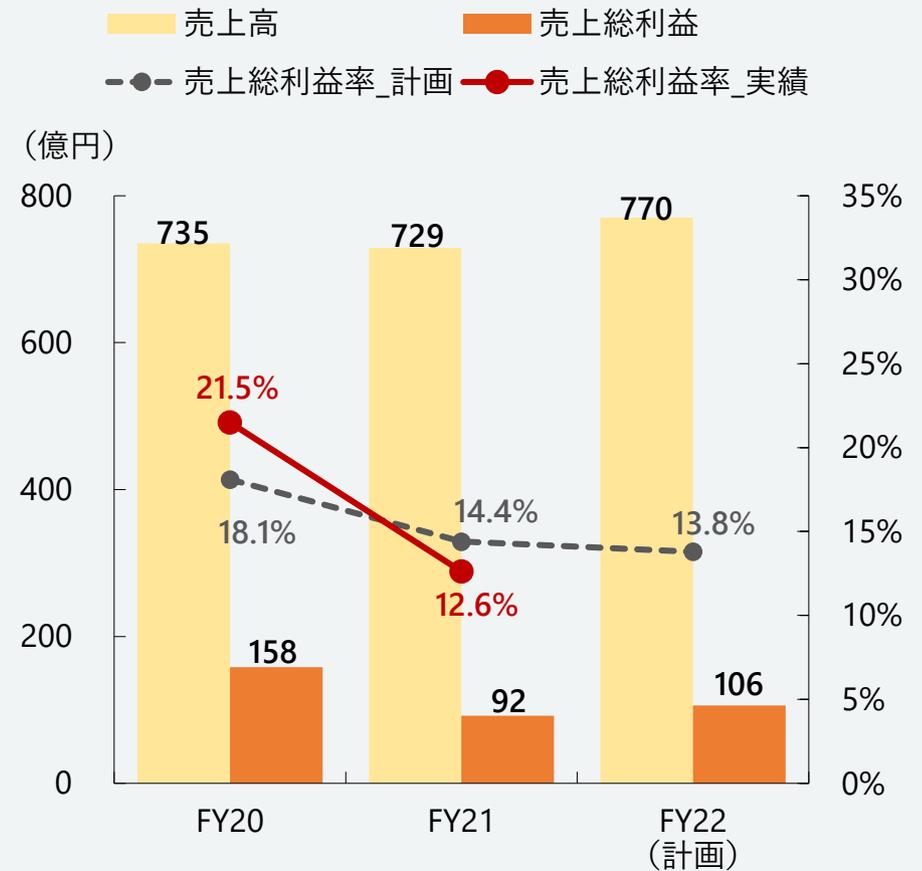
## 10. 舗装セグメント【製造販売事業】売上高と売上総利益の推移

- FY22 1Q 原油高と円安による原材料費高騰分を吸収できず前年同期比減益
- FY22通期 国交省による単品スライド条項の運用ルール改訂<sup>※1</sup>も踏まえ、全社的な価格交渉が確実に進展してきていることで、下期にかけて**業績改善の見込み**

### 第1四半期<sup>※2</sup>



### 通 期<sup>※2</sup>



※1.単品スライド条項の運用ルール改訂（令和4年6月17日発出）

従来は「実際の購入価格」と「購入した月の物価資料の単価」を比較し、安い方の単価が工事請負代金に用いられていたが、購入価格が適当と示す証明書類を提出することで、「実際の購入価格」の方が高くても変更請負代金に用いることが可能になった

※2.上記数値は、前田道路の従来の連結数値であり、インフロンアグループ内の連結消去を考慮していない

## セグメント別ハイライト

建築

土木

インフラ運営

舗装

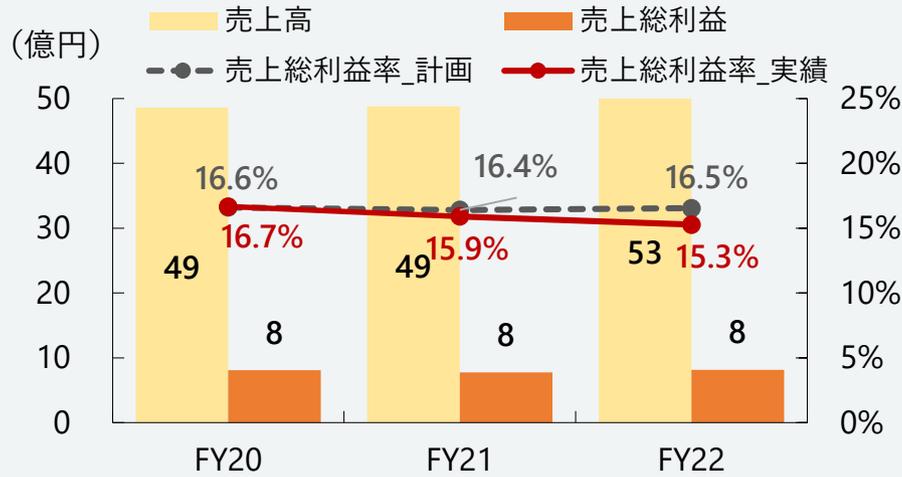
機械

その他

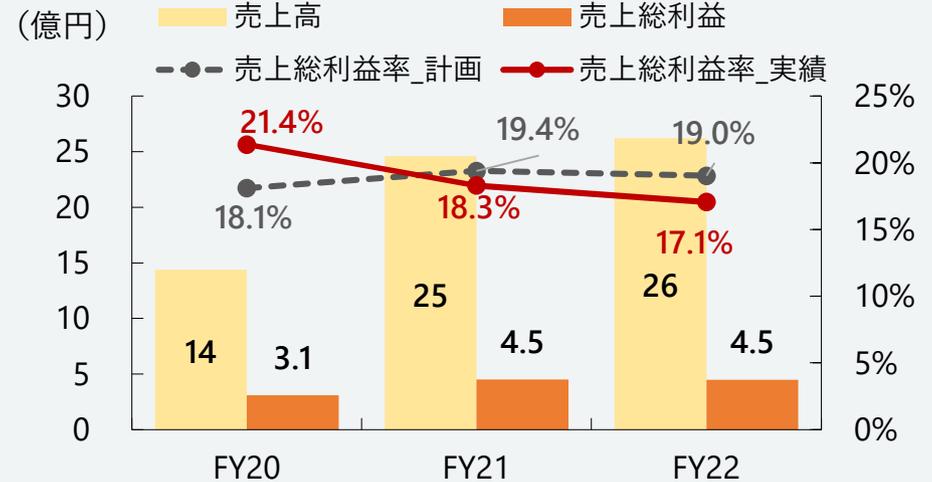
# 11. 機械セグメント 売上高と売上総利益の推移※1

- FY22 1Q 建設機械の新車・中古車の販売、自社製品「クローラークレーン」の販売が堅調に推移
- FY22通期 部品供給の遅れによる影響は懸念されるが、産業・鉄構機械等が堅調に推移する見込みであり売上高、売上総利益ともにFY21を上回る見込み

建設機械※2

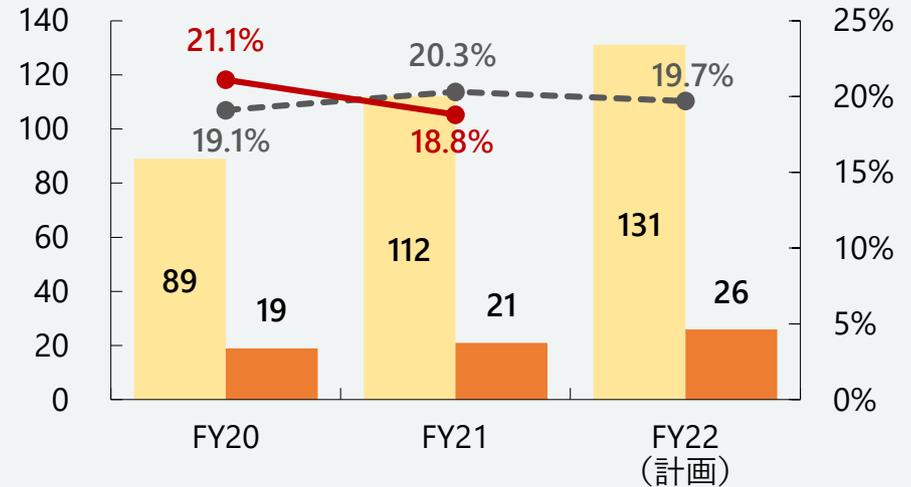
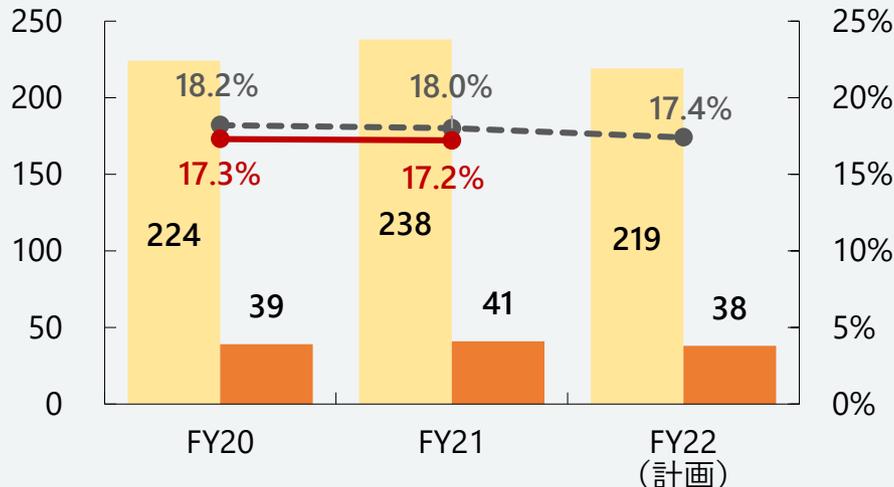


産業・鉄構機械等※3



第1四半期

通期



※1 機械セグメントの内、主要事業である建設機械事業、産業・鉄構機械等事業の数値

※2 コマツ製品の販売・サービス・レンタルを主体とした事業

※3 クレーン等自社製品の設計・製造・販売を主体とした事業

# Appendix

## 1. 【個別】前田建設 FY22 1Q実績とFY22通期計画

(億円)

		FY21 1Q実績		FY22 1Q実績		前年同期比	FY22 通期計画		進捗率
売上高		751		776		25	4,025		19.3%
建築	計	455		394		△61	2,385		16.5%
	国内	455		394		△61	2,375		16.6%
	海外	0		0		0	10		4.4%
土木	計	288		308		19	1,550		19.8%
	国内	286		308		21	1,543		19.9%
	海外	2		0		△2	7		0.3%
インフラ運営		4		69		65	75		92.3%
不動産		4		5		1	15		34.8%
売上総利益		66 (8.8%)		142 (18.3%)		76	582 (14.5%)		24.4%
建築	計	30 (6.7%)		32 (8.1%)		1	259 (10.8%)		12.3%
	国内	30 (6.7%)		32 (8.1%)		1	258 (10.9%)		12.4%
	海外	0 —		0 —		0	1 (10.0%)		3.9%
土木	計	30 (10.4%)		39 (12.6%)		9	241 (15.5%)		16.1%
	国内	29 (10.1%)		39 (12.8%)		10	233 (15.1%)		16.7%
	海外	1 —		△1 —		△2	8 (102.7%)		—
インフラ運営		4 (99.7%)		69 (100.0%)		65	75 (100.0%)		92.3%
不動産		2 (50.6%)		2 (42.0%)		0	8 (50.0%)		29.2%
一般管理費		65 (8.7%)		71 (9.2%)		6	276 (6.9%)		25.8%
営業利益		1 (0.1%)		71 (9.1%)		70	306 (7.6%)		23.1%
経常利益		43 (5.7%)		88 (11.4%)		46	321 (8.0%)		27.5%
当期純利益		46 (6.1%)		62 (8.0%)		16	280 (7.0%)		22.1%

## 2. 【連結】前田道路 FY22 1Q実績とFY22通期計画

(億円)

	FY21 1Q実績	FY22 1Q実績	前年 同期比	FY22 通期計画	進捗率
売上高	508	516	8	2,430	21.2%
建設事業	351	353	2	1,660	21.3%
製造販売	156	161	5	770	20.9%
その他	1	1	0	—	—
売上総利益	48 (9.3%)	36 (7.1%)	△11	280 (11.5%)	13.0%
建設事業	27 (7.8%)	24 (6.8%)	△3	174 (10.5%)	13.8%
製造販売	19 (12.4%)	12 (7.3%)	△7	106 (13.8%)	11.1%
その他	1 (49.6%)	1 (49.2%)	0	— (—)	—
一般管理費	30 (5.9%)	33 (6.5%)	3	142 (5.8%)	23.5%
営業利益	17 (3.4%)	3 (0.6%)	△14	138 (5.7%)	2.2%
経常利益	18 (3.6%)	6 (1.3%)	△12	140 (5.8%)	4.6%
当期純利益	15 (3.0%)	4 (0.8%)	△11	92 (3.8%)	4.4%

## 3. 【連結】前田製作所 FY22 1Q実績とFY22通期計画

(億円)

	FY21 1Q実績	FY22 1Q実績	前年 同期比	FY22 通期計画	進捗率
売上高	78	85	7	372	22.8%
建設機械	49	53	4	219	24.4%
産業・鉄鋼機械等	25	26	1	131	20.0%
介護用品・その他	5	5	0	22	24.2%
売上総利益	15 (19.3%)	16 (18.8%)	1	76 (20.3%)	21.1%
建設機械	8 (15.9%)	8 (15.3%)	0	38 (17.4%)	21.4%
産業・鉄鋼機械等	4 (18.3%)	4 (17.1%)	0	26 (19.7%)	17.3%
介護用品・その他	3 (55.6%)	3 (62.1%)	0	12 (53.0%)	28.3%
一般管理費	13 (17.2%)	14 (16.6%)	1	60 (16.1%)	23.5%
営業利益	2 (2.1%)	2 (2.2%)	0	16 (4.2%)	12.0%
経常利益	2 (2.6%)	2 (2.9%)	0	17 (4.5%)	14.7%
当期純利益	1 (1.8%)	1 (1.7%)	0	11 (3.0%)	13.1%

## 4. 主なグループ会社のFY22 1Q実績と通期計画

(百万円)

連結子会社	(株)エフビーエス			フジミ工研(株)			(株)JM		
	FY21 1Q実績	FY22 1Q実績	FY22 通期計画	FY21 1Q実績	FY22 1Q実績	FY22 通期計画	FY21 1Q実績	FY22 1Q実績	FY22 通期計画
売上高	5,302	4,156	21,382	1,658	2,088	9,000	4,011	4,356	21,000
営業利益	266	110	986	87	41	218	-111	-1	460
経常利益	278	113	996	115	63	245	-94	-1	470
当期純利益	185	99	650	106	211	246	-79	-2	296

連結子会社	愛知道路コンセッション(株)			みおつくし工業用水コンセッション(株)		
	FY21 1Q実績	FY22 1Q実績	FY22 通期計画	FY21 1Q実績	FY22 1Q実績	FY22 通期計画
売上高	3,255	3,503	13,406	—	325	1,290
営業利益	988	751	2,808	—	36	126
経常利益	638	449	1,606	—	33	36
当期純利益	590	412	1,476	—	15	22

持分法 適用会社	東洋建設(株)			光が丘興産(株)		
	FY21 1Q実績	FY22 1Q実績	FY22 通期計画	FY21 1Q実績	FY22 1Q実績	FY22 通期計画
売上高	30,626	30,976	162,694	834	1,008	3,800
営業利益	893	1,195	8,500	93	143	500
経常利益	989	1,217	8,500	1,042	1,208	1,560
当期純利益	637	937	6,000	861	903	1,100

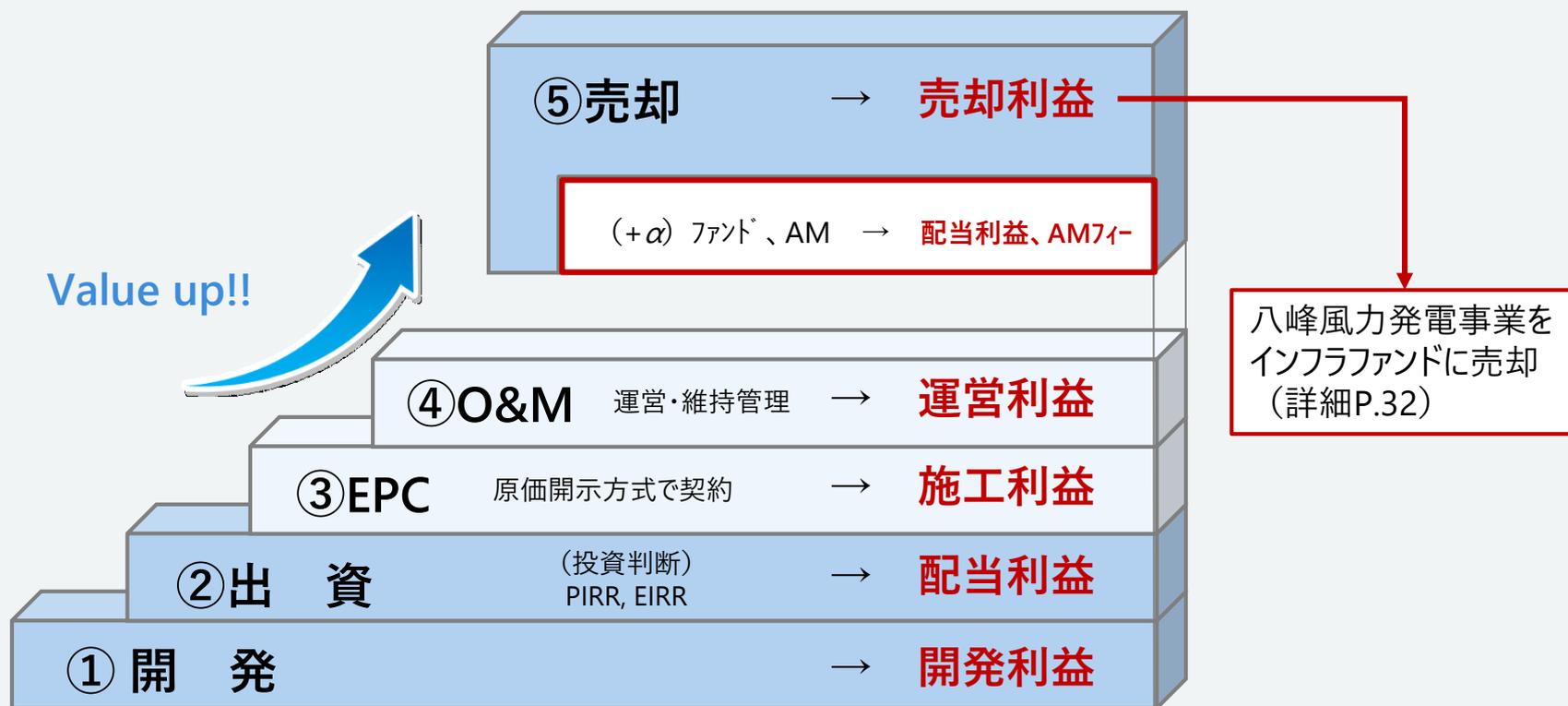
## 5. セグメント分けの変更

- ・ホールディングス化に伴い、セグメント分けを変更
- ・セグメント変更に伴う業績数値の大きな変化はない

インフロニア・ホールディングスのセグメント		これまでの前田建設連結のセグメント	
建築事業	前田建設工業(株)建築事業 前田建設工業(株)不動産事業 (建築)	建築事業	前田建設工業(株)建築事業 (株)JM Thai Maeda Corporation Limited (株)エフビーエス 建築事業
土木事業	前田建設工業(株)土木事業 前田建設工業(株)不動産事業 (土木)	土木事業	前田建設工業(株)土木事業 (株)エフビーエス 土木事業
舗装事業	前田道路(株) (連結)	舗装事業	前田道路(株) (連結)
機械事業	(株)前田製作所 (連結)	製造事業	(株)前田製作所 (個別) フジミ工研(株)
インフラ運営事業	前田建設工業(株)インフラ運営事業 匿名組合五葉山太陽光発電 愛知道路コンセッション(株) 匿名組合愛知道路コンセッション 匿名組合美祢太陽光発電 匿名組合八峰風力開発	インフラ運営事業	前田建設工業(株)インフラ運営事業 匿名組合五葉山太陽光発電 愛知道路コンセッション(株) 匿名組合愛知道路コンセッション 匿名組合美祢太陽光発電 匿名組合八峰風力開発
その他	(株)JM Thai Maeda Corporation Limited (株)エフビーエス フジミ工研(株)	その他	前田建設工業(株)不動産事業 (建築・土木)

## 6. インフラ運営事業のビジネスモデル

- インフラ運営事業は、インフラの上流～下流（売却までを含める）までの全ての段階（①～⑤）で、収益を獲得するビジネスモデルである



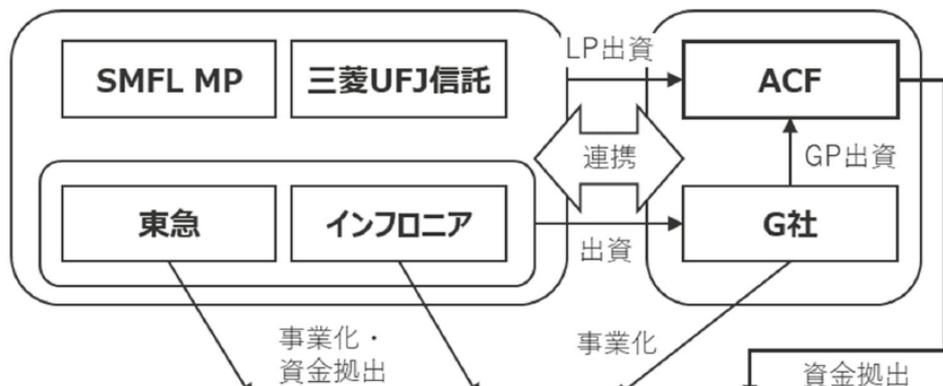
- 事業から5段階 + αで収益を獲得
- 施工ノウハウの強みを活かす（開発、EPC、O&M）

## 7. インフラ運営事業の新たな事業プラットフォームの構築

- 当社は、東急(株)、グローバル・インフラ・マネジメント(株)（当社と東急(株)が50%ずつ出資）、三井住友ファイナンス&リース株式会社（「SMFL」）および三菱UFJ信託銀行株式会社と共に、アセット・クリエーション・ファンド・シリーズ（「ACF」）とインカム・ファンド・シリーズ（「ICF」）という2種類のインフラファンドを含む、新たな事業プラットフォームを構築
- PPPや環境エネルギー分野などの近年注目されているインフラ事業領域での、更なる事業展開と国内インフラ資本市場の発展促進を目指す

### <ACFファンド>

#### 事業領域 1：国内インフラ事業の事業化/案件化領域



#### <インフラ事業現場における案件化&ファイナンス・ニーズ>

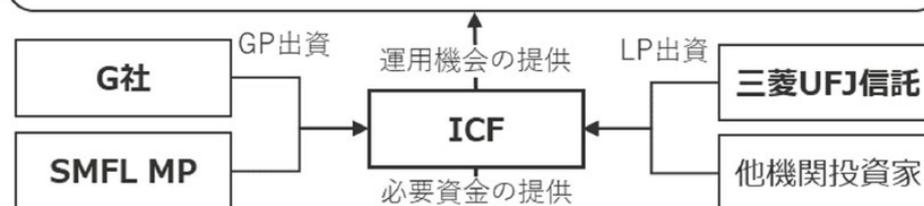
- 柔軟性や機動性の高い資金の需要（開発、公募・入札案件など）
- 事業化やキャッシュフローの安定化まで時間を要する機会
- ルール整備やスキーム作りの支援から求められる機会

### <ICFファンド>

#### 事業領域 2：国内インフラ資本市場領域

#### <国内機関投資家の国内インフラ事業分野での資金運用ニーズ>

- 安定的キャッシュフローの獲得
- ファンド運用者/事業者の事業運営能力とバリュアップ能力
- 適正なガバナンスとコンプライアンス



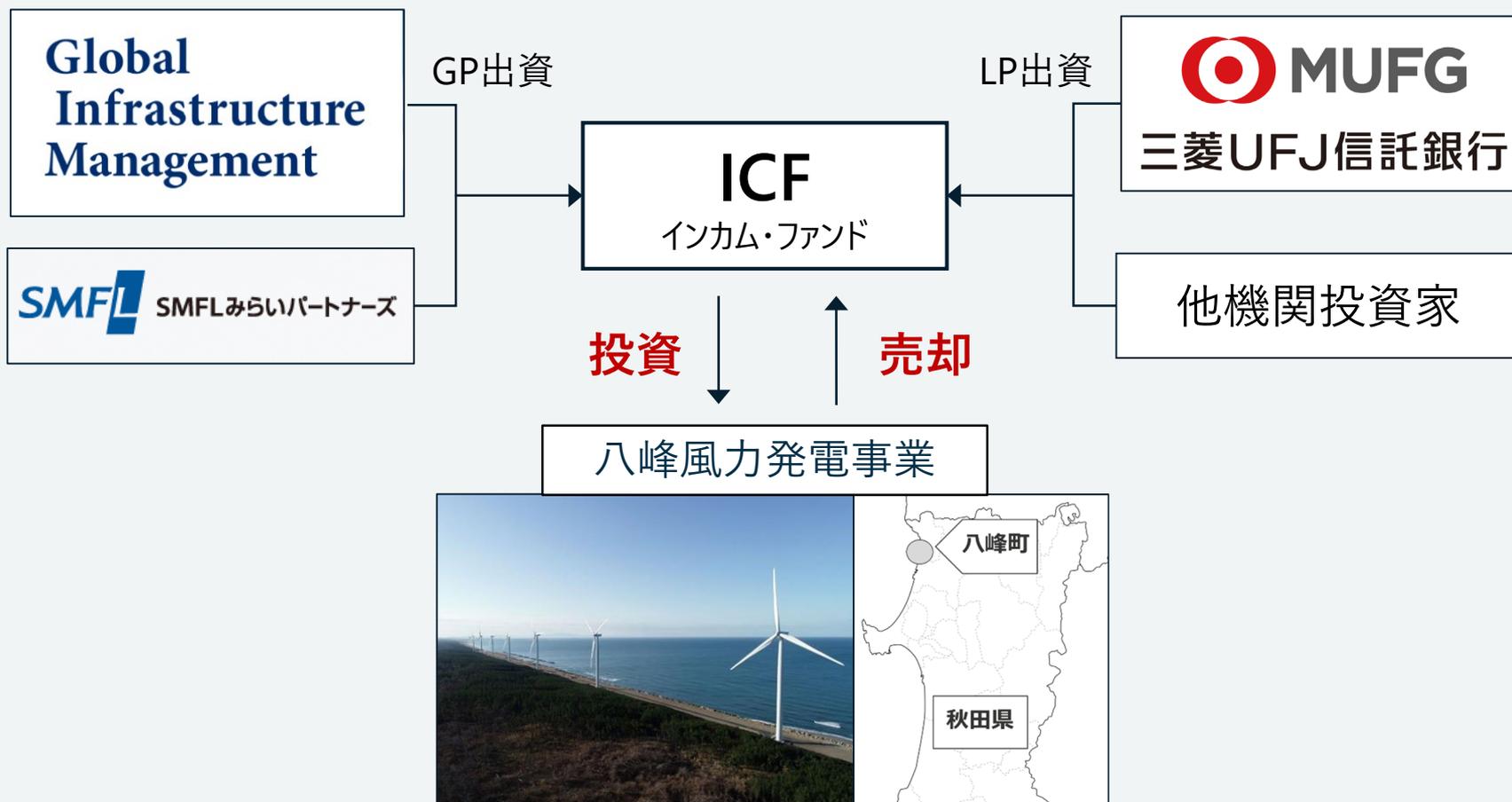
#### <インフラ事業関係者/事業主からのファイナンス・ニーズ>

- 事業の継続性、運営能力と責任感
- 安心感（顔が見える）と長期安定保有（売らない投資家）
- 資金（量）提供能力と資本コスト

2022年7月5日当社プレスリリース『新たなインフラ事業プラットフォームの構築について』より

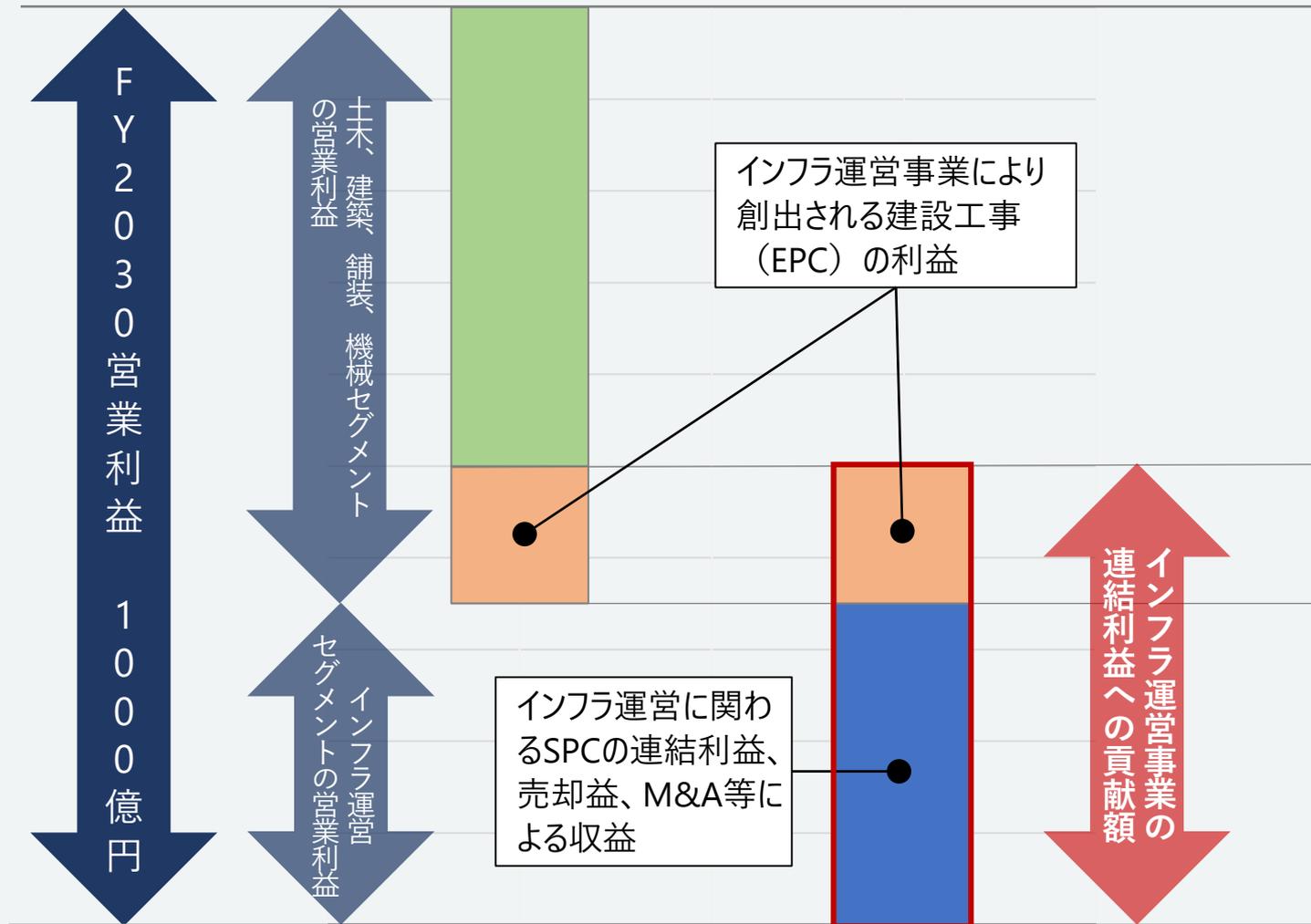
## 8. インカム・ファンドにおける第1号投資案件

- グローバル・インフラ・マネジメント(株)（当社と東急(株)が50%ずつ出資）と、SMFLみらいパートナーズ(株)は、インフラ事業等を投資対象としたインフラファンドであるインカム・ファンド（ICF）を国内機関投資家と共同で組成
- 第1号投資案件として、秋田県八峰町の風力発電事業へ投資



## 9. インフラ運営セグメント 利益貢献額について

- 「インフラ運営事業の連結利益への貢献額」は、「インフラ運営事業により創出される建設工事（EPC）の利益」と「インフラ運営に関わるSPCの連結利益、売却益、M&A等による収益」を合わせた数値



10. 政策動向：PPP/PFI推進アクションプラン（令和4年度改訂版）が内閣府より公表

岸田政権はPPP/PFIを**新しい資本主義の中核**として位置付け

- PPP/PFI推進アクションプランとは、PPP/PFI推進を目的として事業規模目標や重点分野の設定、PPP/PFI推進に向けた取組みを進めるための実行計画を定めたもの  
(PFI法に基づく民間資金等活用事業推進会議にて決定、内閣府PPP/PFI推進室が発表)
- 本アクションプランについては、進捗や課題フォローアップ等を踏まえて毎年更新
- 今年度は事業規模目標の更新タイミングで、**新たな事業規模目標\***が掲げられた

➤ インフラの中期経営計画策定時（2021年度）の**想定を大きく超える事業規模目標**



※ この場合の事業規模とは、この期間に契約締結した事業から見込まれる民間事業者の契約期間中の総収入であって、年間の売上高ではないことに留意が必要

# 11. トピックス「低炭素合材の推進」

低炭素合材とは、  
従来方式よりも**低炭素な製造手法によって製造されたアスファルト合材**の総称

➡ 製造に関わるCO2排出量をトン当たり**最大50%削減を目指す！！**

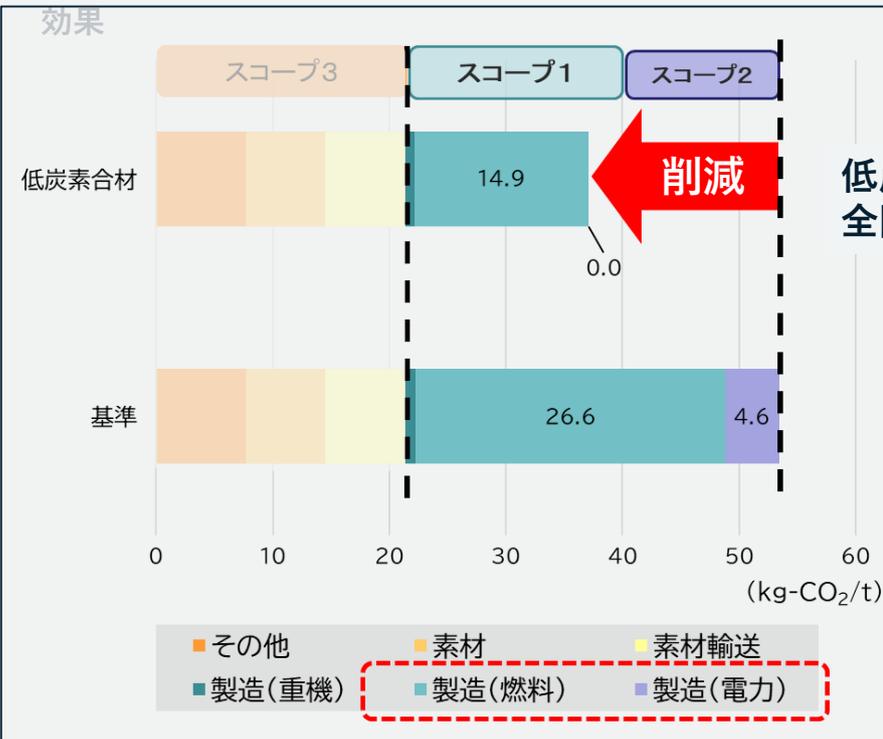


低炭素合材  
**MAEDA ROAD**



前田道路 朝霞合材工場

◆ 前田道路朝霞合材工場での低炭素合材のCO2排出量削減



- 中温化合物 (LEAB)
- 蓄熱式脱臭炉
- RE100電力
- カーボンニュートラル燃料

先進技術の組み合わせで、  
より多くのCO2削減を実現

低炭素合材の出荷工場  
全国100工場の内、50工場で導入済み



## News 1

# YouTubeチャンネル「馬淵磨理子の株式クラブ」で、当社が紹介されました！！

経済アナリストの馬淵磨理子氏と当社社長である岐部が対談を行い、馬淵氏の鋭い視点から当社のビジネスモデルや中長期の事業戦略、目指す姿等について深掘りしていただきました。

是非ご覧ください！



リリース



YouTube

リリース URL : <https://www.infroneer.com/topics/2022/05/30/277.html>

YouTube URL : <https://www.youtube.com/watch?v=e1O95qRdkX0>



## News2

# インフロニア・ホールディングス 公式Facebook、Instagram



インフラの未来に挑戦するインフロニアの姿をもっと多くの人に知ってもらいたい、という想いからFacebookとInstagramで情報発信を行っています。

ぜひフォロー&いいね！をお願いします！



Facebook

Facebook URL : <https://www.facebook.com/infroneer/hd/>



Instagram

Instagram URL : <https://www.instagram.com/infroneer/hd/>

## News3

# Kibe-log 岐ベログ

インフロニア・ホールディングスが何を考え、どういう社会の実現を目指しているのかを全てのステークホルダーにお伝えるため、社長の岐部が考えていることを発信していきます。



岐ベログ

Kibe-log URL : <https://www.infroneer.com/topics/tag/16.html>

～バックナンバー～

- 第1回：インフロニアが考えるインフラの未来
- 第2回：ホールディングス体制に移行した理由
- 第3回：建設コストの「原価開示」が重要だと考えるわけ
- 第4回：セカンダリー市場が拓くインフラ投資
- 第5回：インフラ投資を阻害する名ばかりノンリコースローン

**【注意事項】**

本資料に記載されている業績数値は、決算短信の数字を億円単位とし、四捨五入しております。  
また、業績計画等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、実際の業績は、様々な要素により記載の数値とは異なる結果となる可能性があります。

インフラの未来に挑む  
Challenge the status quo

 **INFRAFRONTIER Holdings Inc.**